

令和7年度病害虫発生予察情報 発生予報第10号(9月)

令和7年9月24日

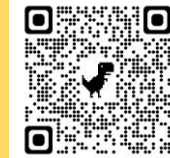
発表：福島県病害虫防除所

【注意が必要な病害虫】

野菜 花き	■ 夏秋トマト：トマト黄化葉巻病（TYLCV）、トマトキバガ、トマト褐色輪紋病 -③
	■ 野菜花き共通：ハスモンヨトウ -① (令和7年8月28日付け注意報参考)

※ 上記の表に記載された病害虫は、下記の①～③に該当します。

- 注) ①現状において、注意報レベルの防除を要すると判断された病害虫
 ②「1 主な病害虫の発生予報」のうち、予察調査の結果、発生時期が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病害虫の中で特に懸念される病害虫
 ③「1 主な病害虫の発生予報」以外で、調査の結果、県全域的に発生が多く、問題になると判断した病害虫



病害虫防除所
HPは
←こちらから



病害虫に関する
防除対策の
ページは
←こちらから

1 主な病害虫の発生予報

(1) 野菜、花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト(被覆栽培)	灰色かび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	発病葉は摘除し、防除を徹底する。 多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	葉かび病	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった(—)。	多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	すすかび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	コナジラミ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が見られる場合は、速やかに防除を実施する。 一部のは場で寄生葉率の高いほ場が確認されており、トマト黄化葉巻病の発生も確認されている。 葉裏まで薬剤がしっかりとかかるように防除する。
野菜、花き共通	オオタバコガ	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	キクでは生長点付近、ピーマンやトマト等では果実等をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。
	ハスモンヨトウ	全域	—	多い	フェロモントラップの誘殺数が平年より多く、複数の野菜花き調査ほ場で被害が確認されている(+)。	防虫ネットを設置し、施設内部への侵入を防ぐ。ほ場をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(—)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

2 発生が懸念される病害虫

トマト	■ トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 夏秋トマトとミニトマトで、トマト黄化葉巻病の発生及び発生地域の拡大が確認されています。発生ほ場においては、コナジラミ類の防除を徹底してください。また、発病が疑われる株については速やかに抜き取り処理を行ってください。なお、今後定植するほ場では、コナジラミ類の侵入を防止するため、ハウス開口部に防虫ネット（0.4mm 目合い）を設置しましょう。 病害虫防除所ホームページでも情報を掲載しているため、下記の URL も参考にしてください。 【注意喚起～トマト黄化葉巻病 (TYLCV) のまん延防止対策～】 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/544337.pdf 【トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 対策 チラシ】 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648953.pdf 【トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 対策 パンフレット】 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648954.pdf ■ トマトキバガ 南会津地域のフェロモントラップにおいて、8月3半旬から誘殺数が増加傾向となっています。また、県内の複数地点において葉や果実の食害が確認されています。ハモグリバエ類の食害痕と間違えやすいため、症状をよく確認し、トマトキバガに適用のある薬剤を選択した上で防除しましょう。（参考：下図） A photograph showing a tomato leaf with irregular, light-colored, necrotic damage on its surface, caused by tomato pinworm larvae. 写真1 トマトキバガ幼虫による被害葉 （面状） A photograph showing a tomato leaf with distinct, winding, and elongated damage patterns, characteristic of damage caused by hamogribae larvae. 写真2 ハモグリバエ類幼虫による被害葉 （線状） ■ トマト褐色輪紋病 9月10～12日に実施した巡回調査では、県内の複数地点においてトマト褐色輪紋病の発生が確認されています。本病は、病勢が進展し始めると防除が困難となるので、初発期から定期的な薬剤散布を行いましょ。また、本病原菌の生育適温は28～30℃であり、高温多湿条件での発生が多く、草勢が低下すると病勢の進展が助長されるため、適切な草勢管理に努めましょ。
-----	--